

20周年記念号

海洋深層水の利活用促進に向けて

山田勝久・大塚耕司

海洋深層水利用学会・利用促進委員会

利用促進委員会は、海洋深層水利用の活性化を目的として発足しました。当委員会の主たる事業は、毎年全国各地の取水地で開催される当学会全国大会の前日に海洋深層水の利用者と学会参加者が一同に集まり、海洋深層水の利活用に向けた新しい試みの発表や全国における利活用の現状、さらには利用者からの質問など、海洋深層水にかかわる人たちが活発に意見交換できる「全国利用者懇談会」を運営しています。この全国利用者懇談会は、2011年の伊豆大会で「利用者懇話会」と称して利用者を中心に学会参加者を含めておよそ60名が集まって意見交換を行ったことが始まりです。翌年の伊豆大島大会では海洋深層水利用学会の承認の下、現在の「全国利用者懇談会」と正式に名付けて、その名のとおり全国の海洋深層水の利活用状況の情報を共有するべく、毎回、学会開催地の利用者協議会のご理解とご尽力の下、意義ある企画内容をもって運営して参りました。2012年の伊豆大島では、地元利用者が不在の中、大島町の皆様のご支援を得て無事に開催することができました(写真1)。

2013年は台湾での合同開催となりましたが、ここでも台湾における海洋深層水利用者の活発な啓発活動の支援が得られて、日本で開催する以上に盛況な

懇談会となりました。こうして本会は一步、一步あゆみを進め、2014年の伊万里での「全国利用者懇談会」では伊万里市の全面的なご支援で130名を超える参加者を迎え、その中には高校生の姿も見られました。佐賀大学の池上先生のコーディネートの下、活発に意見交換がなされ、熱気に包まれた大盛会となりました(写真2)。

また本会は全国各地から海洋深層水の利用者に参集頂けるのが理想の姿ですが、開催地が遠隔地となる場合が多いことから実際はなかなか思いどおりの姿には至りません。そこで2015年の久米島で開催された本会では、伊豆海洋深層水利活用組合の佐藤組合長殿にご理解とご協力を頂き、ビデオレターの形での参加を試みました。これは参集できない地域の海洋深層水利用者の意見を予めビデオレターに収録しておいて本会の会場で放映し、その内容を意見交換の契機とする狙いがあります。一般に懇談会などでは意見を述べられる方が固定化する傾向がありますが、出来るだけ利用者の皆様の幅広い意見を共有することも本会の大きな目的であり、またそれが利益につながると考えております(写真3)。2016年の富山県滑川市での本会では、富山県立大学の五十嵐先生にコーディネートをお願いし、滑川市ならび



写真1 伊豆大会前夜の利用者懇話会(伊豆大会)



写真2 伊万里大会前夜の利用者懇談会



写真3 久米島大会前夜の利用者懇談会



写真4 滑川大会前夜の利用者懇談会

に、入善町の温かいご支援を全面的に受けて海洋深層水の利用研究における各分野のエキスパートからのキックオフ講演があり、これを受けて参加者からの意見交換が活発に行われました(写真4)。

これまで本会の運営を通して、全国各地の海洋深層水の利用者の方々が他の取水地における利用状況や活用の方法に対して非常に興味を抱いておられること、そして取水地の公共団体の皆様がその利活用について真剣に取り組んでおられることがよくわかり、敬服するばかりです。そこでこれら海洋深層水利用者の方々が、本学会に何を望まれているのか？ということを理解しておくことは非常に重要ではないかと考えるに至りました。そして本学会に関する初めてのアンケートを2015年に行い、翌年に集計結果を公表させて頂きましたが、ここであらためて振り返ってみたいと思います。本調査は2015年6月から8月にかけて、全国の海洋深層水取水施設に向けてアンケート用紙を送付し、本学会事務局宛のファクシミリで回答をお送り頂きました。まず学会に対する認知度は97.5%という高い数値になりまし

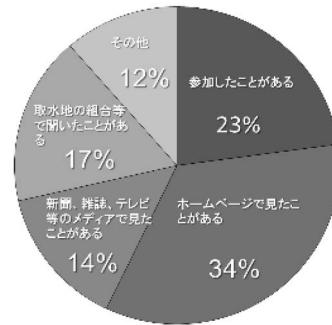


図1 海洋深層水利用学会を知った経緯

表1 学会への期待

回答内容	回答率(%)
海洋深層水の価値を研究し、周知してくれる	87.0
海洋深層水を利用した商品開発のヒントを提供してくれる	52.2
海洋深層水の研究者とのつながりができる	30.4
海洋深層水の安全性を周知してくれる	17.4
海洋深層水に対する疑問を相談できる	17.4

た。当学会を知った手段としては「学会のホームページ」が半数以上を占め、次に「学会の活動への参加」が3割以上と続いています。一方、新聞、雑誌やテレビ等の一般メディアによる認知は2割程度に留まり、メディアにおける海洋深層水関連情報の露出が少ないことがわかります(図1)。一方学会への期待度は極めて高く、具体的には、「海洋深層水の価値の研究と周知」や「海洋深層水を利用した商品開発のヒントの提供」の声が多く(表1)、海洋深層水に関する興味ある利用分野については、「養殖や魚介類加工等の水産分野」、「加工食品等の食品分野」及び「サプリメント、化粧品等の健康・美容分野」など幅広い分野に渡っており、これらの期待に対して学会が果たすべき責任の重要さがこのアンケートからもわかりました。

上述のように、利用者から高い期待が寄せられている本学会ですが、総会や大会への参加経験に関しては全体の23%しかありませんでした。

これは学会全体としての一つの課題であり、今後参加者の増加にあたっては、学会としての魅力度をより向上させることが望まれます。当委員会は利用者として、学会とのつなぎ役として、学会の魅力を少しでも多くの利用者に届けられるように今後も活発な海洋深層水の利用促進の一助となる企画を進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。